

## 非小細胞肺がんの効能を有する主な抗がん剤の間質性肺炎等の発生頻度一覧

一般名	調査名等	間質性肺炎	肝機能異常	重篤な下痢	白血球減少	治療関連死
ゲフィチニブ (イレッサ錠)	添付文書「重大な副作用」	1～10%	10%以上	1%未満	-(注1)	-
	承認時	-	/			-
	プロスペクティブスタディ 〔観察期間：8週間〕	5.8%				2.3%
	ケースコントロールスタディ 〔観察期間：12週間〕	3.98%				1.6%
ドセタキセル (タキソール注)	添付文書「重大な副作用」	0.2%	頻度不明	-	65.3%	1.4%
パクリタキセル (タキソール注)	添付文書「重大な副作用」	0.5%	4.4%	-	59.7%	-
酒石酸ビンoreルビン (ナベルビン注)	添付文書「重大な副作用」	1.4%	-	-	84.4%	-
塩酸ゲムシタビン (ジェムザール注射用)	添付文書「重大な副作用」	1.4%	頻度不明	-	13.0%	2.0%
カルボプラチン (パラプラチン注射液)	添付文書「重大な副作用」	0.1%	頻度不明	-	56.42%(注2)	-
シスプラチン (ブリプラチン注)	添付文書「重大な副作用」	0.1%未満	頻度不明	-	36.5%(注2)	-
塩酸イリノテカン (カンプト注)	添付文書「重大な副作用」	0.9%	1.1%	44.3%	73.4%	4.4%
化学療法剤一般	国立がんセンター東病院における肺がん患者レトロスペクティブスタディ結果	-	-	-	-	2.3%

(注1)：添付文書「その他の副作用」として、1%未満の頻度が報告されている。

(注2)：添付文書「重大な副作用」に白血球減少の記載はあるが、頻度の記載はない。ただし、再審査終了時までの総症例における頻度として別に示されている。